



まる ○福連携2023

一般社団法人福祉システム北海道

高橋 銀司代表理事

異業種との対話から福祉を探る

◆エピソード3 webイラストレーター tate(たて)さん



たて 1986年、雄武町出身。福祉系事業経営の傍ら、趣味のイラスト制作を生かし、SNSでイラストレーターとして作品を発信。YouTubeチャンネル「○(まる)福連携プラス」の挿絵をはじめとして、似顔絵等の受注イラストをスマホアプリで描き上げている。

●webイラストレーターとして、気を付けていることはありますか？

私自身、本業が福祉関係の仕事なので、webイラストは副業としての扱いなので、Instagramにコメントも書いていますが、見た人が嫌な気分にならないようにだったり、誰かや何かを悪く言うような誹謗(ひぼう)中傷はしないように気を付けています。

お会いしたことがない人の似顔絵の依頼も多いのですが、特徴をとらえる時にも過度に描きすぎない、やわらかい、やさしい雰囲気心がけています。

●これまでの活動で失敗談というのがありますか？

イラスト作成時のことではないのですが、Instagramを始める際に、毎日投稿(365日、1日に何か投稿する)を目指していました。しかし、200日目ぐらいにイラスト作成とは別な理由で体調を崩し、投稿がしんどくなったのが1つの失敗かなと思います。趣味といえども、自分に無理なく、が必要と感じた体験ですね。

●毎日投稿しようと思ったきっかけはなんですか？

私の周りで起業した人が何人かいて、Instagramで「フォロー」や「いいね」などをしたいと思いました。ただ、その際に何も投稿していないアカウントではなく、何かにチャレンジしているアカウントからの「フォロー」や「いいね」をしてあげたいという思いがありました。

●どんな絵を投稿していましたか？

初日はとても緊張していて、目に入った自分の靴の絵を投稿しました。2日目、自分の着て

いる服やバッグなどファッションや趣味に関連するイラストを投稿していました。流行りのものは「いいね」が付きやすいのですが、当時人気だった「東京リベンジャーズ」のイラストが「いいね」が多かったですね。

●webイラストの活動をしていて、福祉や介護を感じることはありますか？

webイラストでは直接的に福祉を感じることはありませんが、イラストやアート作品など、表現というジャンルでの投稿でパラアーティスト、パライラストレーターと呼ばれる、障がいを持った方たちの活躍が目立ってきていると思います。SNS等を通して障がいのある方たちも簡単に表現の発信ができる、いい時代だと思います。

●最後に、イラスト作成のコツなど教えていただけますか？

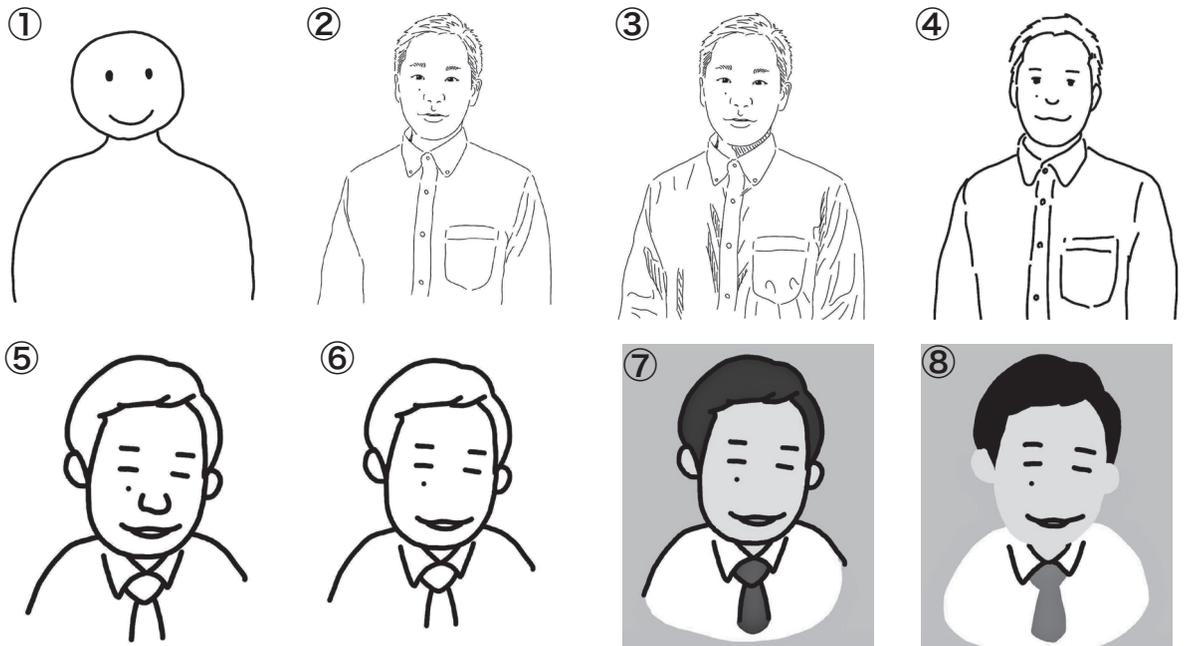
今回は「情報量」をテーマにイラスト作成のコツを、高橋さんの似顔絵をもとにお話しさせていただきます。

便宜上、極端な例ではありますが、①と②の絵のどちらが高橋さんに似ているかという「情報量(髪、顔、服などの書き込み)」の多い②になります。②の情報量を増やすために、陰影を増やします。影を足して、まだ物足りなさを感じますので、髪と襟元に色の濃淡をつけます。情報を足せば足すだけ、リアルなイラストになります(③)。

逆に、情報量を減らし、線を太くすることで、イラストのタッチが変わります(④)。シンプルな似顔絵を描くコツとして、輪郭や髪形、目鼻口の特徴などを、最初のシンプルな元の顔のパーツと変更していきます。アナログだと何回も描いて消さなくてはなりませんが、デジタルだとパーツを入れ替えることができます。

鼻がある絵(⑤)とない絵(⑥)がありますが、どちらも高橋さんに見えます。ほくろや輪郭、髪形などで特徴をつかんでいるからです。色をつけ、更に、SNSアイコンで使うポイントとして、背景を塗りつぶすのが好みです。テイストも変わっており、ベースの線を残しているか(⑦)、残していないか(⑧)でも、印象が変わります。

イラストの描き方に正解はありません。自由な発想で、自分らしいイラストを描いてみてください！



◎インタビュー◎

たかはし・ぎんじ 1987年、小清水町出身。北海道介護福祉学校や北海道医療大卒業後、障害福祉事業所に勤務の傍ら、北星学園大大学院社会福祉学専攻修士課程修了。オホーツク社会福祉専門学校専任教員を経て、現在、日本医療大総合福祉学部助教およびEzo'n music提携ジャーナリスト(NPO経営・福祉系)としても活動。社会福祉士、介護福祉士。

日本医療大 Ezo'n music



「○(まる)福連携プラス」YouTube配信中

インタビューの様子などを視聴できる動画チャンネル「○(まる)福連携プラス」がYouTubeで配信中。紙面に掲載し切れない内容を含め10分ほどにまとめている。

○福連携プラス



●イラストレーターとwebイラストレーターは、何が違いますか？

大きく分けると、イラストレーターは紙や鉛筆、筆などを使うアナログで、webイラストレーターはパソコンやタブレット等で描くデジタルです。私自身はスマホで絵を描くアプリを使って描いたイラストをSNS等に載せているのでwebイラストレーターを名乗っています。

●YouTubeチャンネル「○(まる)福連携プラス」のイラストも描いていただいている、人気があります。どうしてwebイラストを描くようになったのですか？

小さい時から暇さえあれば絵を描いていました。磁石で描いて消せるお絵描きのおもちゃで何千何百とイラストを描くのが好きな子どもでした。もちろんゲームも好きだったのですが、親からは「子どもの頃の作品は見本として学校に寄贈され、家には思い出が残っていない」と冗談を言われるほど、作品を評価された経験から、更に自分の趣味として、のめり込んでいったのかなと思います。

●小さい頃から遊びでやっていた絵が、お仕事として成立するようになったということなのですね。小さい頃はどんな絵を描いていましたか？

アニメのドラゴンボールやガンダムだとか、当時流行(はや)っていて好きだったマンガの絵などをまねして描くことが好きでした。その延長線上で、似顔絵や人の絵を描くのが好きですね。

●アニメやマンガのキャラクターって、結構細かくて描くのが大変じゃないですか？

今では磁石で絵を描くおもちゃも細かい線が描けるようになってきていると思いますが、当時はクレヨンで太く描くような絵でした。うまくは描けていないですが、ざっくりとかみくみ描いていたのが今の自分のテイストになっています。

●webイラストレーターとして活動し始めて何年ほどですか？

就職などで絵を描く機会が少なくなっていたのですが、ペン付きのスマホが出てから、また趣味で空いた時間に絵を描き始めたのが5、6年前くらいです。LINEなどのSNSアイコンを描いた時に周りから評判がよくて頼まれるようになったのが初めですね。

●最初はweb上で趣味でやっていたことがお仕事になったのは、いろんな人に見てもらったからですか？

もともとは友人など身内からは頼まれていたのですが、コロナ禍でなにか始めてみようと思いい、Instagramでイラストを発信したのがきっかけです。

●webイラストを描くうえで、どんな絵が喜ばれますか？

最初は靴や、服のような身近に目につくものを書いていましたが、そのうちアニメのキャラクターなども載せるようになり、「絵のタッチが好きだ」と言ってくれる方がいて、イラストのリクエストや似顔絵の受注などが増えてきました。